

AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2007年6月 No.28 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市橋津310-1
 特定非営利活動法人 AMDA (アマダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail：member@amda.or.jp
 編集：AMDA Journal 編集室
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

AMDAは1984年の設立以来、平和を妨げる戦争、災害、そして貧困に苦しむ人々への支援を続けてきました。昨年(2006年)8月に、国際連合経済社会理事会より「総合協議資格」を取得できましたのも、ご支援くださった皆さまのおかげとAMDAスタッフ一同感謝しております。
 今後ともAMDAの活動をご理解くださり、ご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

AMDAの 緊急救援活動 2006年度

AMDAの緊急救援活動は、災害の発生後あるいは紛争による難民発生後、いち早く現地に駆けつけ、医療支援の届きにくい地域や難民キャンプにおいて、被災者や難民を対象に保健医療活動を行います。特に現地の状況、被災者のニーズを把握するために、被災地に近いAMDA海外支部(29ヵ国)と連絡を取り合い、その支部などの医療チームと日本からの医療チームで多国籍医師団を編成し活動にあたっています。被災者の言葉、生活習慣、文化、宗教などを共有することのできる医療スタッフは、AMDAの緊急救援においては不可欠だからです。これまで、46ヵ国95件の実績があります(2007年6月1日現在)。

そして、現地の医療システムが再開し始める頃を見計らい、現地医療関係者等に活動の引継ぎを行い、緊急救援活動を終了します。例外として、短期緊急救援活動から引き続き、長期社会開発プロジェクトに移行する場合があります。最近では、スマトラ島沖地震・津波緊急救援活動やニアス島地震緊急救援活動から復興支援プロジェクトです。また、難民キャンプでの支援は、難民が健康維持し、安全に帰還できるまで保健医療の方面から支援を継続しています。現在はネパールでブータン難民支援プロジェクト、ジブチでソマリア・エチオピア難民支援プロジェクトを実施しています。(2～3P参照)

ソロモン諸島沖地震・津波緊急支援活動

2007年4月2日、首都ホニアラ北西345kmで、マグニチュード8.1の地震が発生し、その後、大規模な津波が押し寄せました。国家災害委員会は、5月17日現在死者52人と発表していますが、戸籍制度がないため、正確な把握は困難とされています。避難者数は、9,000～10,000人(内約5,000人が18歳以下)で、その多くは丘の上や密林地帯に設営された132ヵ所の避難所などで生活しています。

AMDAは、ササムンガ病院で、AMDAインドネシア支部派遣のヌール・スーリア・ヴィーラワン医師(麻酔科)が看護師6人と協働し、24時間体制で診療を行いました。また、本部からニティアン・ヴィーラヴァグ調整

員が派遣され、コーディネーションと本部との連絡を担当しました。

【緊急医療支援活動】

活動場所：ササムンガ病院(ソロモン諸島 チョイスル島 ササムンガ村)

活動期間：4月21日～5月5日(15日間)

【主な疾患・診療者数】

劣悪な生活環境と疲労蓄積から、当初、マラリアの流行が心配されていました。同病院にはマラリア検査官がいて検査を担当し、ヴィーラワン医師が、マラリア患者へクロロキシンなど抗マラリア薬を処方しました。

マラリア件数の増加は、4月22日を最後に収まりましたが、発熱や頭痛などの症状を訴える患者は、診療活動期間中絶えることはありませんでした。また、雨水や小川の水を生活水としていたこともあって皮膚疾患も多く、診療した総患者数は388人でした。



AMDAの緊急救援活動 - 2006年度 -

◆ネパール抗議デモ負傷者 緊急医療支援活動 (4月)



巡回診療チームは、抗議デモの参加者と治安当局の双方を診療しました

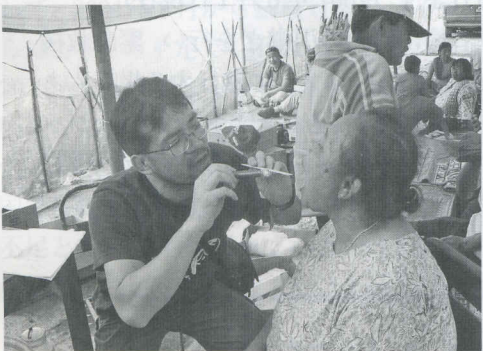
◆インドネシア・スラウェシ島洪水 緊急医療支援活動 (6月)



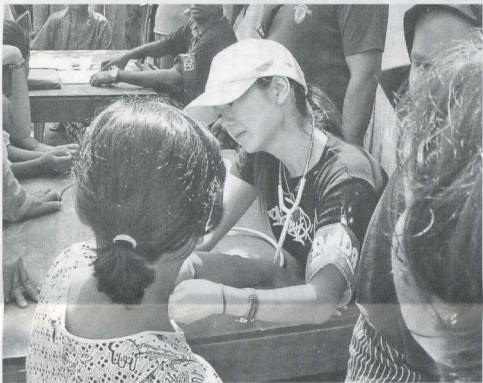
AMDAインドネシア支部とともに巡回診療を行う小堀他津子看護師

◆ジャワ島中部地震緊急救援活動 (5・6月)

本部 (日本)・インドネシア・マレーシア・ネパール・カナダ・フィリピン・カンボジア各AMDA支部より計41人の医師・看護師・調整員が従事しました



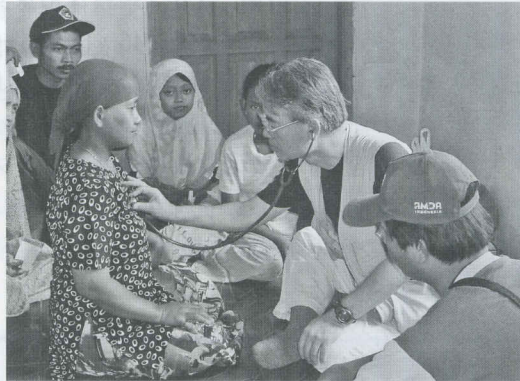
細村幹夫医師



峯岸亜紀子看護師

◆ジャワ島津波緊急医療支援活動 (7月)

診療、はしかの予防接種とビタミンA投与、破傷風の予防接種を計657人に行いました



比屋根勉医師



渡邊美英看護師 (中央)・向井信子 (左手前) 看護師

2007年度 AMDA社 長期プロ...



ジブチ
難民支
毛布の

ザ
結
コ

◆フィリピン台風



渡邊美

■AMDA「ERネットワーク日本」 ご登録のご案内

より迅速な初動体制を確立するため、登録制度のAMDA「ERネットワーク日本」を整備しています。緊急救援活動派遣を希望される方は、ご登録ください。

なお、ご登録者には、緊急救援初動の際にお声をおかけさせていただきますが、登録により、活動参加義務が発生することはありません。

※登録に関するお問合せ先：

緊急救援担当 TEL：086-284-7730

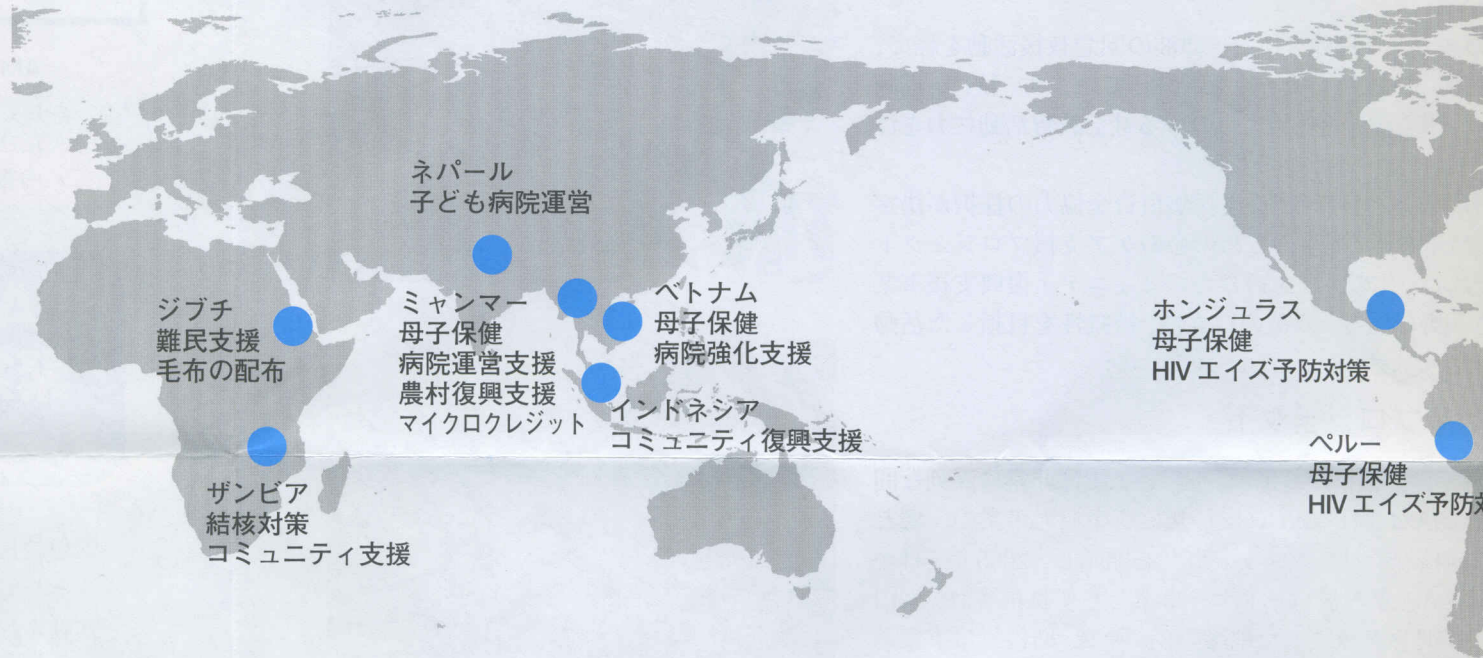
E-mail：member@amda.or.jp

■AMDA会員の募集

会員となってAMDAの活動を支えてくださる方を募集しています。医師会員・一般会員・学生会員・法人会員の皆さまには活動報告誌『AMDAジャーナル』を年4回、『AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)』を年2回、賛助会員の皆さまには『AMDAダイジェスト (AMDAジャーナル号外)』を年2回送付しています。

*入会ご希望の方は、同封の郵便払込取扱票の裏面をご覧ください、必要事項をご記入の上、ご入会の手続きをお取りください。

2007 年度
AMDA 社会開発機構
長期プロジェクト実施国



◆フィリピン台風 21 号緊急医療支援活動 (12 月)

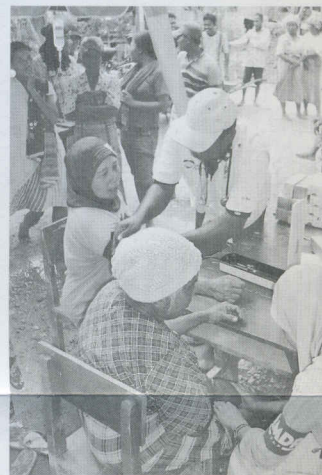


渡邊美英看護師



フィリピン医師会と協働し、避難所で診療を行いました。一日の患者数が約 1,300 人に達した日もありました。

◆スマトラ島北部洪水緊急
(12 月・2007 年 1 月)



◆能登半島地震に対する支
(2007 年 3 月)



■ボランティア大募集

年齢や性別にかかわらず、事務作業のお手伝いなどをしていただくボランティアを幅広く募集しています。お気軽にお問合せください。

※ボランティアに関する
お問合せ先：
ボランティア担当
TEL：086-284-7730
E-mail：member@amda.or.jp

■AMDA プロジェクト
ご支援のお願い

ご寄付くださいます際には、同封の郵便払込取扱票をご利用ください。指定寄付の場合には、連絡欄に、活動実施国名あるいは事業名をご記入ください。

※郵便振替
口座番号 01250-2-40709
口座名 AMDA

AMDA インドネシア支部とともに巡回診療を行う小堀他津子看護師

比屋根勉医師

渡邊美英看護師(中央)・向井信子(左手前)看護師

集

の活動を支えてくださる
師会員・一般会員・学生
には活動報告誌『AMDA
『AMDA ダイジェスト
(2007 年 2 月)』を年 2 回、賛助会員
ダイジェスト (AMDA ジ
送付しています。
同封の郵便払込取扱票の
必要事項をご記入の上、
りください。

換し、通信費として使用させていただきます。

社会開発プロジェクト紹介 (4P 参照)

社会開発機構
プロジェクト実施国



21号緊急医療支援活動 (12月)



英看護師



フィリピン医師会と協働し、避難所で診療を行いました
一日の患者数が約1,300人に達した日もありました

◆スマトラ島北部洪水緊急医療支援活動

(12月・2007年1月)



バンダアチエのザイナル・アビディン
病院とAMDA緊急医療支援チームを
結成し支援活動を行いました

■ボランティア大募集

年齢や性別にかかわらず、事務作業のお手伝いなどをしていただくボランティアを幅広く募集しています。お気軽にお問合せください。

※ボランティアに関する

お問合せ先：
ボランティア担当
TEL：086-284-7730
E-mail：member@amda.or.jp

■AMDAプロジェクト
ご支援のお願い

ご寄付くださいます際には、同封の郵便払込取扱票をご利用ください。指定寄付の場合には、連絡欄に、活動実施国名あるいは事業名をご記入ください。

※郵便振替
口座番号 01250-2-40709
口座名 AMDA

◆能登半島地震に対する支援活動

(2007年3月)



避難所(門前西小学校)で調査を行う館野和之調整員

いただきます。

社会開発プロジェクト紹介

(3P 参照)

◆インドネシア・アチェ復興支援プロジェクト

2004年12月26日のスマトラ島沖大地震・津波の緊急救援活動を経て、翌2005年5月よりアチェ津波復興支援活動を継続しています。特に、巡回診療と仮設集団避難所で暮らす子どもたちに対する社会教育活動に力を注いできました。

2007年3月、日本国外務省の日本NGO支援無償資金協力の採択が決定し、バンダ・アチェでは津波被災児童のための心のケア支援プロジェクトとして、南アチェ県では心と体のケアを通じたコミュニティ復興支援事業として、より長期的な視野に立った事業の自立性、持続性を目指した活動を展開していくこととなります。



↑ インドネシア・アチェ ↓

◆ザンビア結核対策プロジェクト

HIV/エイズとの関係が深い結核の蔓延は、ザンビアでは非常に深刻な問題となっています。AMDAは、日本NGO支援無償資金協力事業の一環として、2004年2月から結核対策のパイロット事業を開始し、2005年7月からは2年半の予定で、JICAの草の根パートナー事業として採択され、人口30万人を超えるジョージ地区とカニャマ地区の2ヶ所で、結核対策事業を展開しています。現在、その有効な治療プログラムとして直接監視下短期化学療法(DOTS = Directly Observed Treatment Short-course)が多くの国で採用されています。この国の保健行政機関は、慢性的な財政難と人材不足という問題を抱えているため、地域の保健ボランティアを育成し、その機動力を活用し、行政を支えることを目的とするこのプロジェクトは、大いに注目されています。

研修を受けたサポーター(保健ボランティア)は、保健センターやヘルスポストなどを拠点に保健施設のスタッフと共に結核の治療と防止に励んでいます。患者の自宅を訪問し、その服薬と健康状態を確認しながら、患者とその家族に対して保健教育を行っています。サポーターは、地域内で見られる結核に対する偏見を軽減し、感染を防止するためにコミュニティ全体に対する劇や歌などを通じた啓蒙教育も行っています。将来は、このサポーターが組織的に独立した住民組織として、結核と闘っていくことを目指して活動を続けています。



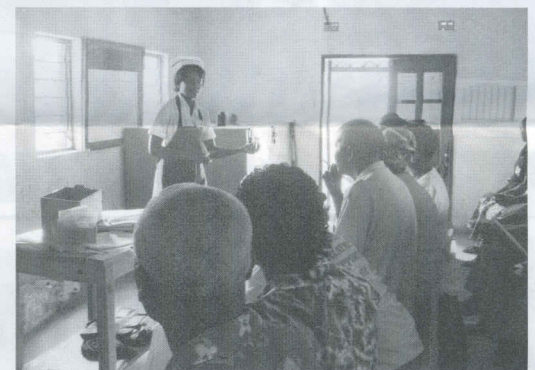
↑ ザンビア ↓

◆ペルー栄養・母子保健プロジェクト

2006年より味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの支援を受け、栄養・母子保健に関する住民のエンパワーメント支援事業を実施しています。首都リマ市の貧困地域カラバイヨ地区において、特に若年層の妊産婦・母親の栄養・母子保健に関する「エンパワーメント」を目指し、保健プロモーターの育成や保健教育、そして周産期女性や母親を中心とした住民グループの形成を支援しています。ペルー味の素社とも連携し、これまでに20人の保健プロモーターを育成し、彼女ら自身が栄養・母子保健教育を実施しています。

栄養や母子保健に関する基本的な知識が、「母と子の健康を守る力の向上」に寄与し、その仲介役を果たすのが保健プロモーターであるとの基本姿勢を取り、住民の力によって健康を向上させることが、このプロジェクトの目標です。

栄養教育をする保健プロモーター
(AMDA: Amiga Madre Adolescente: 本事業の保健プロモーターグループの名称)



ペルー

AMDA ジャーナル2007夏号の発行は8月1日を予定しています